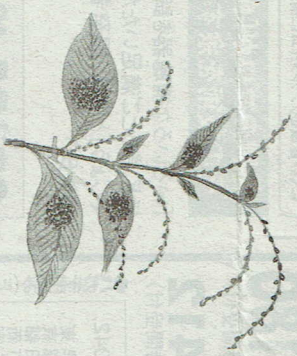


うたた寝



イラスト・平野 恵理子

「地元の子供たちのニコニコルでお父さん役をやってみませんか」。千葉県市川市に住む「タクちゃん」こと、斎藤匠さん(22)は7年前、子供のPTA活動で知り合った人から、こう誘われた。斎藤さんは日本芸術学部を中退後、俳優を志して劇団にいたこともあった。広告代理店などを経て、テレビ番組の制作に関わる小さな会社を経営している。土曜日の朝、軽いノリで受けてから、思いがけない生活が始まった。

ニコシカルは知的障がいを持つ子供たちが主要メンバーだった。「毎週日曜日にみっちり練習するのはきつかった。でも、天使みたいに純真な子に生まれ、元気をいっぱいもらった」。そのうちに付

障害者とともに文化祭

き添いの母親らとも語り合っようになった。「将来、私が先に死んだら、うちの子はどんなのか」と悩む彼女たちを元気づけようと、気がつけば「タクちゃん with チヤレンジ・ダンサーズ」というチームをつくっていた。母子らと福祉施設などを訪問。歌って踊って、少しでも障がい者に理解のある社会になるようにと訴えた。

東日本大震災以降、さる活動を広げた斎藤さんは2年前から年1回、東京で障がい者とともに歌や踊り、お笑い、手話パフォーマンスなどを業しむ文化祭「チャレンジ・フェスティバル」を開いていく。昨年は日比谷公園の噴水広場などで延べ200人がスナジに上り、約6千人が来場した。

「エンタメの力で障がい者を持つ持たないの垣根もなくなりたい」と斎藤さんは言う。今年も11月7、8日、日比谷公園で開く予定で毎日、アフタ5に奔走している。

(シニア・エディター 平田浩司)

ホントタチ(ホントク夢) タチ科の一年草。秋に、先の垂れた花穂を出し、花をつける。葉の表面には黒斑が出る。